

## 令和5年度 学 校 総 合 評 価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は「質実剛健」「自主自律」の校風のもと、生徒の進路実現を着実に図るとともに、社会の発展に積極的に寄与していこうとするリーダーとしての資質や能力を高め、未来を切りひらく人間力を備えた「ふるさとに誇りと愛着をもったグローバル・リーダーの育成」に取り組んでいる。課題研究や体験活動を系統的に取り入れ、思考力や判断力、コミュニケーション能力の伸長を図るとともに、生徒の優れた能力を引き出し、主体的に学校生活を過ごすことができるよう、方策として5つのアクションプランを定め教育活動を行ってきた。

各重点項目の取り組み状況は、以下のとおりである。

学習活動では、学習習慣が十分身につけている生徒や粘り強く問題に取り組む生徒が、近年減少傾向にあるとの指摘がある。学習手帳の活用や学習計画と振り返りの習慣化、担任や教科担当者による面接指導をすすめることで、学習習慣の定着を図っている。また校内互見授業の参加率を高め、参加後の意見集約と共有化を行い、授業改善および指導力向上に向け学校全体で取り組んでいる。

進路支援では、キャリア教育の一環として地域や卒業生の協力の下、職業理解講座や大学学部学科紹介等を実施した。また、自律的な学習者を育成するため担任による面談を丁寧に行うとともに、面談内容を充足させるため、校内で大学入試問題研究会等を行い教員の指導力向上を図っている。

学校生活では、心身の不調を訴える生徒や学校不適応傾向を示す生徒が増加傾向にある。カウンセリングによる継続的な支援とともに、予防的教育相談の観点から、状況に対応した研修会を適宜実施し、生徒理解の一助とした。

特別活動においては、コロナ禍前の規模で各行事が実施できたことから、生徒の満足度は昨年度より3～5%上昇した。また、入学時に図書館オリエンテーションを実施したことで、1年生の利用増加につながったと考えられる。

課題研究や探究活動は、大学や外部機関の協力が生徒の積極的な活動の支えとなっている。また、今年度は海外派遣を実施できたことは大きな成果であった。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学習に関しては、生徒の実態を踏まえた上で、自律した学習者となるために効果的な初期指導について研究を深め、未来を切り開くグローバル・リーダーの育成に努めたい。また、ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、今後も互見授業や校内研修を実施し、個々の生徒に応じた指導・進路支援につなげたい。課題研究や探究活動への取り組みは、地域や大学との連携がスムーズに行われており成果を上げていると感じる。今後は研究成果をもっと外部で発表できる体制を整え、生徒の学習意欲の喚起につなげたい。

学校生活では、基本的な生活習慣の確立および規範意識の向上に引き続き取り組むとともに、今後も増加が見込まれるさまざまな特性や悩みを持つ生徒に対応できる体制づくりに努めたい。部活動や生徒会活動、学校行事に対する生徒の満足度は高いことから、より主体的で充実した活動につながるよう努めたい。

以上、今年度の取組全体については、学校評議員を含め校内外の意見を参考に生徒の自主性を引き出すために何が必要か考え、校内でさらに検討を加えながら教員間で課題の共有化を図り、指導を工夫することが必要と考えている。

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡高校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導	
現 状	<p>これまで本校の生徒は、授業を大切にし、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声がかかる。また、積極的に質問を行い、納得いくまで理解しようとする姿勢の生徒が減っているとの声もある。変化の激しいと予想されるこれからの社会で活躍するためには、自律的、主体性に、他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。一方で教員側も、変化する現在の生徒に適合した主体的・対話的で深い学びの視点からの指導方法を研究・実践することが大切である。教員・生徒に貸与されている一人1台タブレットは、学習活動に有効に活用されており、無線LAN設置エリアの増加とともに、ICT機器の効果的な活用がますます期待される。</p>	
達成目標	①②③学習課題への取組	④⑤情報機器の有効活用
	<p>①計画的な学習と振り返りを習慣としている生徒70%以上                  ②疑問点は友人や先生に質問して理解をした生徒80%以上                  ③授業見学を2回以上行い授業研究する教諭 80%以上</p>	<p>④各教員の授業における生徒タブレットの恒常的な活用 75%以上                  ⑤生徒が学校生活や学習にタブレットを有効活用率 80%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習手帳の使用を通し、学習の計画と振り返りを習慣化させるとともに、学習時間調査を行い生徒の取り組状況を分析する。その結果をふまえ、担任・教科担当者等による面接指導をすすめ、学習意欲を喚起させる。</li> <li>・互見授業を2学期に行う。総合的な探究の時間や課題研究、ICTを活用する授業などの実施時間及び使用教室を全教員に案内し参加率を上げる。実施後は、各教員が得られた「効果的な授業」のポイント、学ぶ意義や学び方に関する指導上の工夫について、意見の集約と共有化を行い指導に活用する。</li> <li>・授業におけるタブレット利用では、活用例などを紹介し、学習者主体のICT機器活用が実現できるように働きかける。</li> <li>・生徒のタブレット利用では、共有フォルダの使用を活用し、恒常的に扱えるよう指導する。</li> </ul>	
達成度	<p>①計画的な学習習慣が身につけている 58%(1年52%、2年47%、3年77%)                  ②疑問点は友人や先生に質問し解決している 83%(1年83%、2年78%、3年88%)                  ③授業見学を2回以上行い授業研究する教員 87%(54名中47名)</p>	<p>④各教員の授業における恒常的な活用 98%                  ⑤生徒の学習や学校生活におけるタブレット有効活用率                  授業での個々利用 78%                  総合・HR・課題研究での利用 86%                  授業以外での利用 80%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間調査や面接指導を行い、時間確保と計画性の大切さを意識させた。</li> <li>・中学校を訪問し、新教育課程生徒の実態調査を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間では、グループ毎にサイトを作成し、情報の共有を図った。</li> <li>・教科学習においても、教材を共有ドライブに置くことで、予復習がスムーズに行えるよう工夫した。</li> </ul>
評 価	① C ② A ③ A	④ A ⑤ B
学校関係者の意見	<p>学習習慣の定着について、年次を追うごとに向上するよう期待したい。学習でのタブレット利用は定着してよい。一方で対面でのディスカッションできるリアルな人間的接触が減少しないことも望まれる。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>新教育課程では予測不能な未来を生きる抜く力を養おうとしているが、その反面基本知識の定着が疎かにされていることが見えてきた。あえて急がず、計画的に学習する力を身につけさせたい。</p>	<p>ICT活用は年々活発になってはきているが、「パソコンを使うことが目的になっていることが時々ある」との指摘もある。適材適所的に利用を進めていくことが必要である。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	高い志を持つ自律的な学習者の育成による進路支援	
現 状	<p>高い志を持って学業に取り組む生徒が自身も納得のいく入試結果を手にする姿が多く見られる本校において、自己の能力や可能性を個々の生徒が大切にし、また集団で相互に関わり合いながら伸ばしていく仕組み作りをしっかりと構築する必要がある。「大学の向こう側にある社会」を意識させながら、目標を立てて主体的に自身の進路を切り開いていく姿勢を涵養し、「高岡高校で学んで良かった」と生徒が実感できるような進路支援に全教職員で取り組んでいく。</p>	
達成目標	① 学習の自己評価を踏まえた面接指導の充実	② 志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)
	年6回以上	58%以上
方 策	<p>&lt;生徒対象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や個人面談、外部講師による進路講話、卒業生による職業理解講座、実社会と関連付いた探究学習との連携等を通して、将来の進路と高校の学習内容の関連を考察させる。</li> <li>・高い志望を貫いた先輩の体験談や、卒業生による大学学部学科紹介を通して、学習に対する姿勢や、大学での学問を深く知るための動機付けとする。</li> <li>・学習時間調査を通して自身の学習の計画と実践を軌道に乗せ、振り返りの機会を設けて自己評価と自己分析を行い必要な改善を取り入れて自らの取り組みを深化させる。</li> <li>・既卒生に対しても積極的かつ継続的に進路支援を行う。</li> </ul> <p>&lt;教員対象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報を収集・分析し、効果的な指導法や対処すべき課題について教員間で共有する。</li> <li>・大学入試問題研究や進路判定会議等の機会を活かし、より良い進路支援について個々および集団で検討し、教科指導や進路指導につなげる。</li> <li>・学習時間調査結果を分析して生徒の学習への取り組みを把握し、学力の伸長につながる助言指導等を工夫し面接指導に反映させる。</li> </ul>	
達成度	① 面接指導の充実 各学期2回以上	② 志望校合格率 53.9%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談支援の冊子「学びの指針」を活用し、学習振り返りアンケート結果も踏まえながら、各学年において各学期に適時実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対し学習の振り返りを通して自己分析し取り組みの深化と調整を促すとともに、教員間で大学入試問題研究等により指導力の向上を図っている。</li> </ul>
評 価	B	C
学校関係者の意見	<p>大学入学がゴールではなく、その先の社会で働くことを意識させる指導は大切である。大学入試の多様化に伴い対応をお願いしたい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>「大学の向こうにある社会」を意識させながら、日々の学習とその集大成としての大学入試を通じ、自律的な学習者の育成に継続して努めたい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚と安全意識の育成</li> <li>・学校生活への円滑な適応と心身の健康保持</li> <li>・学校環境の整備・充実と基本的な感染症対策の徹底</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活上必要な基本的マナーや規範が身につけていない生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。情報通信機器の利用に当たっての危険性についても指導するとともに他者を思いやる心を育て、いじめの防止につなげる。</li> <li>・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が増加傾向にある。その実態と主たる要因を把握し、時期を逸することなく適切な支援を行うとともに、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。</li> <li>・基本的生活習慣の確立や快適な環境維持の重要性を生徒は認識しつつも、十分に実行できていない。学習効率の向上と心豊かな学校生活の基盤となることを理解させ、心身共に健康的な生活実践の態度を育成する必要がある。</li> </ul>	
達成目標	①生徒の実態把握を目的とした声かけ ②各種事故の発生件数減少	③心身の不調を訴える生徒への適切な対応と職員等の意識の醸成 ④学校環境の整備充実、感染症予防活動の推進
	①登校時の校門指導週間 年5回 ②交通安全に関する取り組み 年3回以上	③カウンセリング等 年26回 保護者対象講演会 年2回 ④HRにおける啓蒙活動 年2回以上 教室の換気の徹底
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。</li> <li>・サイクル安全リーダーによる交通マナー遵守の呼びかけとともに街頭指導を行う。</li> <li>・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面接・集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。</li> <li>・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、特に心身不調の生徒の理解に努め、スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員と教師、家庭、関係機関との連携を深め、適切な支援を行う。</li> <li>・教員研修会等により、生徒や保護者と良好な関わり方を学ぶことで、生徒に寄り添いながら信頼関係を構築していく姿勢を醸成する。</li> <li>・健康で充実した学校生活を送るための基本的生活習慣や睡眠の重要性について啓蒙活動を行う。感染状況を踏まえ、適宜、感染予防の啓蒙を行う。</li> </ul>
達成度	①年5回実施 ②年2回実施	③年28回実施 教員等対象研修会、生徒対象研修会、支援会議、ケース会議など状況に合わせて適宜実施した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の校門指導週間は年5回実施した。また、体育大会や文化祭の準備期間には下校指導も行った。</li> <li>・1年生対象の交通安全教室、「さわやか運動」でサイクル安全リーダーによる交通マナー遵守の呼びかけを行った。また、長期休業前には、全校生徒に交通安全を呼びかけた。</li> </ul>	③生徒の不適応行動に対応するよう、学年、他分掌と連携を取りながら、情報共有、対応策の検討を行った。 ④インフルエンザなどの感染症罹患状況をみて、換気の徹底などを行った。
評 価	B	A
学校関係者の意見	心身の不調を訴える生徒が増加傾向であることが気になりだが、学校としての取組が順調に行われていることはよい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の校門指導については、服装面で生徒に自覚を促すことや教員の働き方改革の面からも実施について検討したい。</li> <li>・交通安全に関しては、自転車通学者に対しての交通安全指導について引き続き努力したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防的カウンセリングのための研修会のあり方というものを、学年の現状に合わせた形で、検討していきたい。</li> <li>・感染症予防に対する啓蒙活動を継続していく。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と部活動の両立、生徒数減に対応した特別活動</li> <li>・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね部活動は活発に行われており、上位大会に出場して活躍する生徒もいる。その一方で、活動実態の少ない生徒も見受けられる。また、学習を理由に途中退部する生徒も増えてきており、両立した活動が難しくなっている様子が見られる。また、部員不足により活動に支障をきたしている部も見られる。</li> <li>・学校行事は、クラス内の交流や団結力を高める良い機会になっている。生徒会と課題を共有しながら行事の改革に取り組んでいる。</li> <li>・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちであり、読書量、来館者ともに生徒による格差が大きい。日常的に読書に親しむ習慣を育むために、普段から図書館へ来館するよう、より一層、教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。</li> <li>・図書館の利用者をより拡大するため、生徒図書委員会の活動を活発化するとともに、授業やホームルーム活動での図書館利用を促進し図書館に対する関心を高めたい。</li> </ul>	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上	②貸出冊数の増加 ③図書館の利用促進
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上 ボランティア活動への参加者 のべ900名程度	②図書貸出冊数 3,000冊以上 ③ホームルームでの利用 授業での利用 年6回以上 年3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活動計画を作成し、計画的で質の高い活動となるよう指導する。転退部理由に注目し問題解決に努める。</li> <li>・アンケートを実施し、充実度や満足度を調査するとともに、活動実態を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の読書欲を喚起する「特設コーナー」の設置、広報活動の活性化。</li> <li>・文化講座と読書会を、合計3回開催。企画運営には図書委員を積極的に関わらせる。また、図書委員を中心とした図書館でのホームルーム活動を推奨する。</li> </ul>
達成度	①部活動・学校行事に対する満足度 部活動 満足度 81.0% 昨年 78.0% 体育大会 満足度 92.9% 昨年 89.8% 文化祭 満足度 91.7% 昨年 85.7% 球技大会 満足度 87.3% 昨年 83.5% ③ ボランティア延参加者 305人	② 4/1～12/31の貸出冊数 →2008冊  ③ 4/1～12/31のホームルームでの利用 →7回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会・文化祭の実施内容見直しと改善</li> <li>・個別の部員勧誘、転・退部者への声かけ</li> <li>・支援学校交流の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生入学時のクラスごとのオリエンテーションの実施</li> <li>・図書館だより、推薦図書、新着図書の掲示等による広報活動</li> <li>・ホームルームでの図書館利用の呼びかけ</li> </ul>
評 価	B	C
学校関係者の意見	部活動や学校行事に対する満足度がコロナ禍を経て向上していることはよい。	
次年度へ向けての課題	部活動、行事等満足度の維持向上 ボランティア活動の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の図書館利用者を増やす方策の検討。</li> <li>・図書館を利用したホームルームの企画、運営の工夫。</li> <li>・図書館を利用する授業や、書籍を利用した探究活動の推進。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度 高岡高校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル・リーダー育成のためのプログラム企画</li> <li>・保護者や同窓会との連携</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル・リーダーの育成のため、県内の大学や企業・外部機関等と連携を深める必要がある。また、探究活動の実践を学力向上や進路実現につなげるとともに、普通科における「総合的な探究の時間」のあり方を検討し実践する必要がある。</li> <li>・本校に対する保護者や同窓会、地域の期待は大きい。PTA総会や保護者対象の各種研修会への参加率は高い反面、保護者からの要望にも応える必要がある。また、本校教育活動の広報を一層推進する必要がある。</li> </ul>	
達成目標	①課題研究や探究活動における、大学や企業・外部機関との円滑な連携	②学年研修会等の出席率向上
	①2年課題研究における連携 年3回以上	②学年研修会等の出席率 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等との連絡を密にし、また学年等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。</li> <li>・SGH事業の実践を活かし、将来のグローバル・リーダーとしての能力を育成するとともに、自己発信力が高まるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の研修会等について、保護者の意見も反映し、工夫を重ねていく。</li> <li>・PTAだより等の広報パンフレットの掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。</li> </ul>
達成度	大学との連携 年3回 企業・外部機関との連携 年4回	58%
具体的な取組状況	2年探究科学科の課題研究に対する指導 年3回 2年普通科総合的な探究の時間に対する指導 年4回 1年探究科学科 立山実習 2年探究科学科 校外実習 (高志の国文学館・富山県総合教育センター) 2年海外研修 1年探究科学科 科学探訪	PTA学年研修 3学年 7月実施 2学年 10月実施 1学年 10月実施  その他体育大会や文化祭を保護者の入場制限を撤廃して実施した。
評 価	A  2年生の課題研究では普通科では地元企業との連携、探究科学科では大学との連携がうまく取れており、生徒の探究活動が割合スムーズに行うことができた。海外研修ができたことも今年度大きな成果だったと思う。	C  昨年達出席率63%より減少した。その他PTA指導者研修会にて本校が食堂利用について発表した。関連して、保護者対象の食堂試食会を実施したり、2年普通科探究テーマに食堂利用を一部取り上げたり、生徒会とPTAの研修会を実施したり等、PTA三者の協働活動が見られた。
学校関係者の意見	教員の専門外の教育活動について、PTAの人材を利活用して欲しい。オンライン等の環境も整ってきており、是非協力したい。	
次年度へ向けての課題	現在行われている課題研究の取り組みをもっと外部で発表できるようにしていきたい。	PTA指導者研修発表をきっかけにしたPTA三者の協働のように、お互い連携し合い学校への理解・協力を求めている。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)